

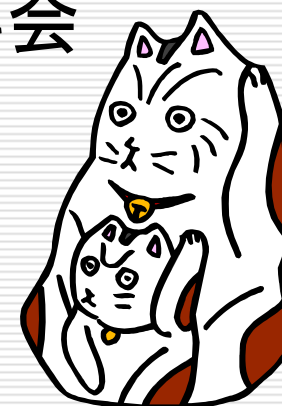
図書館員による図書館員のための サブジェクト・リポジトリの可能性 ～大学図書館員のメンターを目指して～

2011年12月15日

Ｌ-ラーニング学習支援システム研究分科会

小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）



本日の流れ

0. エルラーの挑戦
 1. 今期の課題
 2. 事件は現場で起きている
 3. 問題解決の方法
 4. サブジェクトリポジトリの可能性
 5. おわりに
-

0. エルラーの挑戦

ラーニングとは何か

- 造語
- e-ラーニング
- L = Library, Librarian, Literacy

図書館員のリテラシーや自己学習の支援

0. エルラーの挑戦

■ 活動目的

大学図書館員の自己点検、自己学習、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築ならびに評価、分析

■ 略称

エルラー

0. エルラーの挑戦

□ 第 I 期 オンライン模擬試験

[\[模擬試験TOP\]](#) [\[成績一覧\(Top50\)\]](#)

L-Learning Since 2003

Ｌ－ラーニング・オンライン模擬試験ホームページ

このページは大学図書館員がスキルアップを目指すための試験ページです。
また一般の方に大学図書館司書の仕事を知っていただくページでもあります。

⚠ 試験の前に必ずこちらをご覧ください ⚠

では、さっそく試験にTRYしましょう！
最後まで解答すると、アンケート記入及びコメントが見られます

[過去の成績についてはこちらを参照して下さい](#)

■ L-ラーニングオンライン模擬試験(最新版) Update:2004/12/1 ■		
試験開始 Start		Top:えり (2005/12/02 14:16)
難易度:★★★		成績:100.0%、タイム:2分32秒
出題数:20問	挑戦者:2692人	大学図書館司書として知っておいて欲しい知識を集めた問題です。全問正解者が出ることを期待しております。
問題数:49問	合格者:181人	
合格点:70%以上	正答率:50.6%	
成績一覧	正答率一覧	

■ L-ラーニングオンライン模擬試験(累積版) ■		
試験開始 Start		Top:im (2006/07/30 14:57)
難易度:★★★		成績:100.0%、タイム:2分48秒
出題数:20問	挑戦者:1663人	大学図書館司書として知っておいて欲しい知識を集めた問題です。全問正解者が出ることを期待しております。
問題数:100問	合格者:117人	
合格点:70%以上	正答率:53.0%	
成績一覧	正答率一覧	

Copyright(C) ALL RIGHT RESERVED. L-ラーニング学習支援システム研究分科会

0. エルラーの挑戦

□ 第Ⅱ期 ポータル



L-Learning System
CALENDER

Login

L-Learning

L-Learning
ホーム
体系別リンク集

体系別学習

選書
図書受入
図書整理
雑誌全般
閲覧
電子資料全般
図書システム
ILL
参考業務

模擬試験

全分野ランダム試験
体系ドリル
問題の検索
模擬試験ペータ

イベントカレンダー

2008年 10月
日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4
5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30 31
<今日>

分科会www

L-Learningへようこそ

図書館員のリテラシーやスキルアップのための自己学習を”L-Learning”と命名した。これは、e-Learning(WBT=Web-Based Training)を利用したオンライン教育の手法をヒントに考え出した造語である。
L-LearningのLLは Library Librarian Literacy をイメージしている。

今後の予定

予定なし

図書館関連ニュース

10/22 11:40 山口県立山口図書館、「この人におすすめ！私の読んだベスト3」を募集する企画を実施 (Current Awareness)
10/22 11:37 金野子安下、人々はどんな本を読んでいる？(米国) (Current Awareness)
10/22 09:35 国立国会図書館西館で「ノーベル賞をうみだした原典」を展示 (Current Awareness)
10/21 20:56 大阪府内の公共図書館における商用データベース導入状況 (Current Awareness)
10/21 20:54 「エル・ライブラリー 大阪産業労働資料館」が開館 (Current Awareness)
10/18 01:31 The Times Higher Education SupplementランキンとIR設置数 (Open Access Japan)
10/15 19:13 生物医学分野におけるオープンアクセスの進展状況：2005年と2007年のデータの比較から (Open Access Japan)
10/09 14:58 小林・益川両氏も論文発表、伝統の学術誌が赤字で廃刊危機(読売新聞) (Open Access Japan)
10/07 22:07 SpringerがBioMed Centralを買収 (Open Access Japan)
10/07 20:17 京産大、益川・小林教授のノーベル物理学賞受賞論文を無料公開 (Open Access Japan)

Powered by Xoops2.05 L-Learning System
copyright (c) 2005 All rights reserved.

0. エルラーの挑戦

□ 第Ⅲ期 Moodle

エルラー的体系別学習

あなたは Junya ABE としてログインしています。(ログアウト)

LLS > CF101

ルールを変更する ... 編集モードの開始

人

参加者

フォーラム内を検索

検索オプション

管理

- 編集モードの開始
- 設定
- ロールの割り当て
- グループ
- バックアップ
- リストア
- インポート
- リセット
- レポート
- 問題
- 評価尺度
- ファイル
- 評定
- CF101 から私を登録抹消する

トピックの概略

- ニュースフォーラム
- エルラー的用語集
- 動画サンプル(ブックマーク)
- 音声サンプル(書きとよ)

1 書き

- 1. 書きとは
 - ☒ 書きとは小テスト
- 2. 書きを行うための資質(技能)
 - ☒ 書きの評価
- 3. 書きの評価
 - ☒ 書きの評価小テスト
- 4. 書きの資料
 - ☒ 書きに有益なサイト
- 5. 書きに有益なサイト

2 ☒ 書きテスト

3 図書受入

- 1. 発注
 - ☒ 発注小テスト
- 2. 受入処理
 - ☒ 受入処理小テスト
- 3. 除籍・廃棄
 - ☒ 除籍・廃棄小テスト

4 ☒ 図書受入テスト

最新ニュース

新しいトピックを追加する...
(新しいニュースはありません)

マイコース

- エルラー的体系別学習
- レファレンスライブラリアン虎の穴
- すべてのコース ...

オンラインユーザ

(5 分)

Junya ABE

エルラー的に体系別な学習をします。

カレンダー

2008年 10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

0. エルラーの挑戦

□ 第Ⅳ期 大学図書館員のためのリポジトリ

[FAQ](#)
[図書館関連雑誌著作権情報登録用マニュアル](#)
[L-learningお問い合わせ先](#)

XooNips検索

全て

インデックスツリー

[Public](#)
Public(12)

- アイテム別(5)**
 - 論文(23)
 - 学会発表(9)
 - 利用者向けマニュアル(4)
 - 図書館員向けマニュアル(4)
 - ポスター・チラシ(66)
 - 業務系資料(1)

大学図書館員のためのリポジトリ

当リポジトリでは大学図書館員にとって有用と思われるコンテンツの収集を行っています。info@l-learning.jp までご連絡ください。

アンケート結果

L-learningでは図書館業務に関するウェブアンケートを実施しています。ご協力ください。申し上げます。

- [L-learningアンケート・除籍](#)
- [L-learningアンケート・ペナルティ](#)
- [L-learningアンケート・寄贈図書](#)
- [L-learningアンケート・複本購入](#)
- [L-learningアンケート・選書](#)
- [L-learningアンケート・蔵書点検](#)

今後も同様のアンケートを企画してまいりますので、ご協力よろしくお願いします。

新着

新着アイテム

1位	2011 研修分科会ペナルティアンケート	(10/26) ★
2位	2011 研修分科会ペナルティアンケート	(10/25)
3位	2011 研修分科会ペナルティアンケート	(10/25)
4位	2011 研修分科会ペナルティアンケート	(10/25)
5位	2011 研修分科会ペナルティアンケート	(10/25)

1. 今期の課題

大学図書館員のためのリポジトリ L-LAR を
学習支援システムとして機能させる。

キーワード **PBL(Problem Based
Learning: 問題発見解決型学習)**

1. 今期の課題

辞書的なリポジトリから、問題発見解決型
学習ツールとしてのリポジトリへ

ここに来れば何かしら答えがあるのではなく、自ら問題を発見し、その解決に向けて学習し、問題を解決する図書館員を支援するリポジトリを目指します。

1. 今期の課題

大学図書館員のためのリポジトリL-LAR-を
学習支援システムとして機能させる。

- ✓ どのようにしたら、リポジトリを**PBL**のためのシステムとして機能させることができるのか？
 - ✓ どのようなコンテンツを収集したら良いのか
-

1.1 そもそもリポジトリとは

Institutional Repository 機関リポジトリ：
単に「リポジトリ」と呼ばれているが、主としてこの
機関リポジトリを指す(指していた)。

□ 代表的な2つの定義

- Raym Crow(2002)
 - Clifford A.Lynch(2003)
-

1.1 そもそもリポジトリとは

「単独あるいは複数の大学コミュニティの知的生産物を入手し、保存する電子的コレクション」

Crow, Raym(2002) (日本語訳:『機関リポジトリ擁護論:SPARC声明書』(栗山正光
中井えり子訳)

1.1 そもそもリポジトリとは

- 機関で範囲限定
- 学術的情報内容
- 累積的かつ永続的
- 相互運用性とオープン・アクセス

Crow, Raym(2002) (日本語訳:『機関リポジトリ擁護論:SPARC声明書』(栗山正光
中井えり子訳)

1.1 そもそもリポジトリとは

「大学を基盤とする機関リポジトリとは、大学とそのコミュニティの構成員によって作成されたデジタル資源を管理・普及するために 大学がコミュニティの構成員に提供する一連のサービスである。」

(Lynch, Clifford A.(2003)“ Institutional Repositories: Essential Infrastructure for Scholarship in the Digital Age.” ARL Bimonthly Report, No. 22)

1.2 サブジェクトリポジトリ

□ リポジトリ3つの形

- ・機関リポジトリ

Institutional Repository(IR)

- ・共同リポジトリ

Shared Repository(ShaRe)



シェア

- ・サブジェクトリポジトリ:

1.2 サブジェクトリポジトリ

□ 事例:

- 国内:教育学系サブジェクトリポジトリ

- 海外: *PubMedCentral, Research Papers in Economics (RePEc), E-Prints Library and Information Science (E-LIS)* など

Adamick J. 「Representation and recognition of subject repositories」『D-Lib magazine』Vol. 16, No. 9-10, 2010,

1.2 サブジェクト・リポジトリ

□ 技術要素

- OAI-PMH

- ハーベスティング

1.3 *Problem Based Learning*

□ 意外に古いPBL

1960年代後半 Problem Solving

「問題解決とは何か？」

「教えることができるのか？」

▪ Woods Donald. "Developing problem solving skills: The McMaster problem solving program" *Journal of Engineering Education*. Vol. 86, No. 2, 1997, p. 75-91

1.3 *Problem Based Learning*

□ PBLという2つの異なる学習デザイン

■ Problem Based Learning

1960年代～

■ Project Based Learning

1990年代～

起源: 1900年代初頭 思考に沿う学習

John Dewey 経験主義学習論

1.3 *Problem Based Learning*

□ Problem Based Learning

- カナダのマクマスター大学 健康科学部
- アメリカ ワシントンリザーブ大学 薬学科

➤ 問題解決スキルの獲得と学びを実際の医療場面に近づけること

1.3 *Problem Based Learning*

□ Problem Based Learning

- ✓ 病状を持つ患者を診断する課題
 - ✓ 患者の診断データやデータベースを用いて状況を判断
 - ✓ 患者へのインタビューやデータから情報を収集し、仮説を立て、検証
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ Project Based Learning

■ 起源の諸説

- John Dewey 経験主義学習論
- Problem Based Learning
- 16世紀ヨーロッパの建築学

■ 代表的な成功事例

- ミネソタ・ニューカントリースクール
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ Project Based Learning

■ ミネソタ・ニューカントリースクール

- 学級、教室、ベル 無し
 - 教科書 ほとんど無し
 - 学級担任 不在
 - 生徒が同じ時間に同じ活動をする事
無し
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ 2つのPBLの共通点

■ 考え方

「知識は学習者自身が自ら構築するもの」
(構成主義の考え方を背景に持つ)

■ 手法

- ・少人数のグループで問題に取り組む
 - ・学習者自身の自発的な学び
 - ・教師はサポート役
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ 2つのPBLの相違点

■ Problem Based Learning

- 学習プロセスが明確に定義され、活動デザインに反映されている。

■ Project Based Learning

- 個別の実践にゆだねられている。
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ 2つのPBLの学習成果

■ Problem Based Learning

- 拡張可能な知識の獲得
 - 効果的な問題解決方略の獲得
 - 自己主導型学習の促進
-

1.3 *Problem Based Learning*

□ 2つのPBLの学習成果

■ Project Based Learning

- 自立心の成長
 - 学習態度の改善
 - 高度な思考力
 - 問題解決能力
-

1.3 *Problem Based Learning*

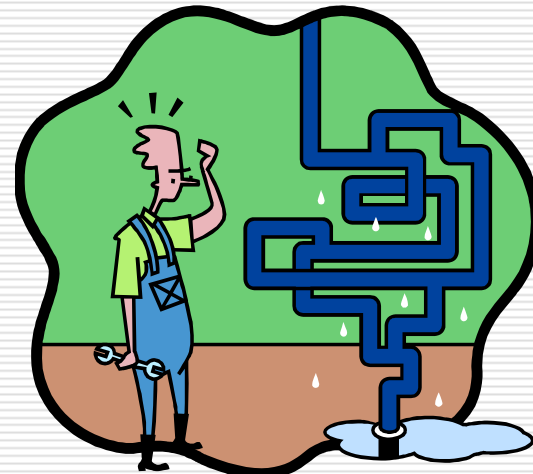
ここに来れば何かしら答えが
あるのではなく

答えを教えて～



1.3 *Problem Based Learning*

自ら問題を発見し、その解決に向けて学習し、問題を解決する図書館員を支援するリポジトリを目指します。



★ 問題提起 ★

そのため何が必要か？

問題を解決する ということからは、どのような問題状況なのかを把握しなければならない！

2. 事件は現場で起きている

2.1 私立大学図書館の現場

□ 業務委託の拡大

- 専任職員が、目録、ILL、貸出・返却、チェックイン、配架...に携わる機会が減少

→ 目録やILL分科会へのニーズが減少

2. 事件は現場で起きている

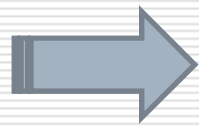
2.1 私立大学図書館の現場

□ 専任職員の非専任職員への置き換え
＝専任職員の減少

→ 毎月分科会への出張が困難

2. 事件は現場で起きている

2.1 私立大学図書館の現場



研究分科会の不活性化

- 2008年 資料組織研究分科会：廃会
 - 2010年 相互協力研究分科会：廃会
-

問題はこれだ！

- コミュニティーの崩壊
 - ✓ 分科会の副産物＝人脈
 - ✓ 分科会の副産物＝他館の生の事例を知る
 - ✓ 分科会の副産物＝館を超えたスキル(経験値)の継承

 - 経験値が積み重ならない
-

2. 事件は現場で起きている

2.2 事件簿

- 情報リテラシー教育、授業支援、ラーニングコミュニティ、リポジトリ、学認、CiNiiBooks…etc

といった“旬の話題”も把握しておかなければ成らないし

2. 事件は現場で起きている

2.2 事件簿

- 学生活用、就職支援、節電、書架狭隘化、問題利用者、図書館建て替え、カビが生えてます、BDS誤作動 etc

だって、立派な “問題”

問題はこれだ！

- 旬の話題ばかりが問題解決につながるわけではない

図書館ならではの縁の下の相違工夫
身近な情報が問題解決に役立つことだってある。

でも、経験値がない、教えてくれる人が
周りに居ない(=コミュニティがない)



3.問題解決の方法

では、問題はどのように解決されているのか？

3.1 ヨコタ=カーター啓子氏の場合

- ポストで採用 → その仕事について周りに教えてくれる人はいない
- 業務データベース

第13回図書館総合展／学術情報オープンサミット2011 11月10日(木)
「日米図書館フォーラム Part 2 日米大学図書館員 スキルアップとキャリア形成」ヨコタ=カーター啓子氏の講演より)

3.2 スキル・経験・人脈

・どのスキルと、どの経験値と、どの人脈とを組み合わせさせて個々の案件に対応できるか。

(第13回図書館総合展／学術情報オープンサミット2011 11月10日(木)
「日米図書館フォーラム Part 2 日米大学図書館員 スキルアップとキャリア形成」 茂出木理子氏の講演より)

3.3問題解決の方法

□ Problem Based Learningの学習サイクル

- ✓ 事実の同定
- ✓ 仮説の形成
- ✓ 知識の欠落
- ✓ 新しい知識の適応
- ✓ 抽象化

(Hmelo Silver C. E. "Problem-based learning: What and how do students learn?" *Educational psychology review*. Vol. 16, No. 3, 2004, p. 235.)

3.3問題解決の方法

- 問題を解決するときの人の頭脳のプロセス
- ✓ 解決する問題は、私たちの内面にあるその問題のイメージ(表象)

つまり、

私たちは、自分の見た問題のとらえ方に基づいて問題を解こうとしている。

3.3問題解決の方法

- 問題を解決するときの人の頭脳のプロセス

✓ 短期記憶 → 問題(表象)の操作

「長期記憶」に保持されている知識を呼び出して
観察し、選択し、想起し、利用するプロセスとの複雑な相互作用

3.3問題解決の方法

- 練習問題の解決

類似の問題を解くときにうまくいった過去の定例の解決法を思い出して利用する。

- 問題の解決

目標を定め、目標と事実に関する情報とのつながりを探るために後ろ向きにすすめる。

3.3 問題解決の方法

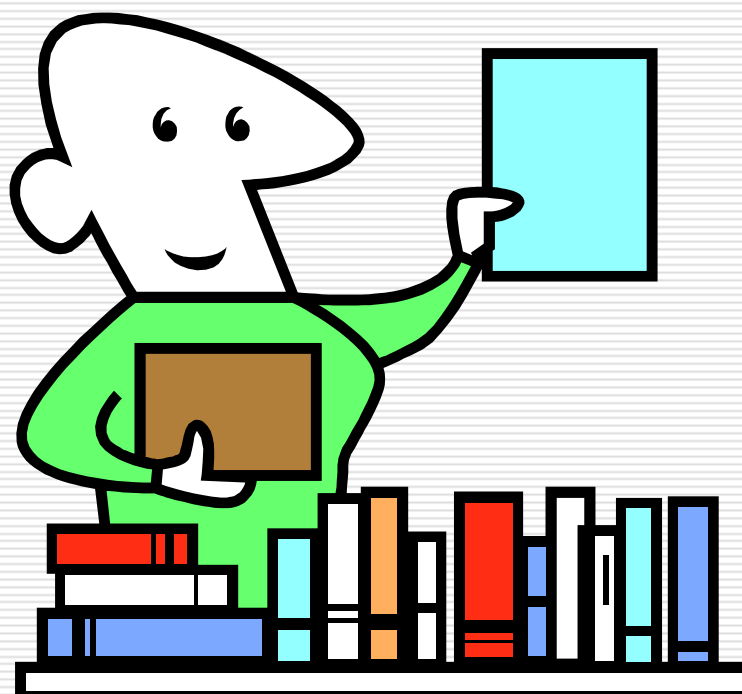


**熟練した臨床医の
95%**

**練習問題の解決法
を用いている**

3.3問題解決の方法

じゃあ大学図書館員はどう？



3.3問題解決の方法

- 旬の話題：情報リテラシー教育、授業支援、ラーニング
コモンズ、リポジトリ、学認、CiNiiBooks...etc

問題解決型

- 日常的な問題：学生活用、就職支援、節電、書架狭
隘化、問題利用者、図書館建て替え、カビが生えてます、
BDS誤作動 etc

練習問題型

問題解決を阻むのはこれだ！

経験値の不足

教えてくれる人が周りに居ない

(=コミュニティがない)



で、どうする？

4. サブジェクト・リポジトリの可能性

経験値

今まで個人が蓄積していた経験値を大学図書館全体で蓄積し、共有していく事が重要

4. サブジェクト・リポジトリの可能性

コミュニティ

分科会の持つ“コミュニティ”としての機能を最大限に生かす。

4. サブジェクト・リポジトリの可能性

「大学図書館員のためのリポジトリ」の
最大の強みは、

**分科会というコミュニティの中で
運用されているサブジェクト・リポジトリである**

という点

4 .サブジェクト・リポジトリの可能性

今期

- ・逐次刊行物研究分科会との協働の模索
- ・研修分科会とのコラボ

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/lis/>

4 .サブジェクト・リポジトリの可能性

次期の課題

分科会というコミュニティと
サブジェクト・リポジトリL-LARとの
更なる 連携

→ **大学図書館員のためのメンターを目指す**

5 .おわりに

来期も引き続き、「大学図書館員のためのリポジトリ」を中心に活動していきます。このうち前期の2012年度は、まず「情報リテラシー」を担当する図書館員にとって役立つ情報を、リポジトリに集中的に登録していく予定です。その他、参加メンバーにとって興味あるテーマを集中課題として順次取り上げて活動していきます。また、同じテーマを持つ分科会とも連携を深め、合同開催も検討しています。

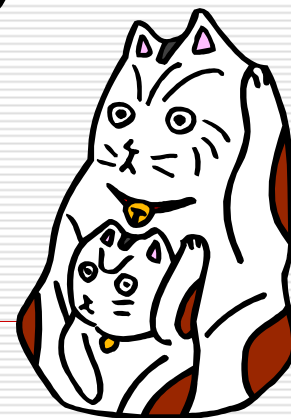
「情報リテラシー」について興味のある方、またリポジトリについて興味のある方、大学図書館員の体系的学習について興味のある方、その他、面白そうなことをわくわくしながらやってみたい方、ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

Ｌ-ラーニング学習支援システム研究分科会

新メンバーの入会を

心よりお待ちしております。

info@l-learning.jp



ご清聴ありがとうございました。

Thank You

